

# 新庁舎整備検討特別委員会行政視察概要

平成30年11月8日（木）

於 茅ヶ崎市議会 全員協議会室

午前9時45分～午前11時50分

## 1 調査の概要・説明 …… 吉野 施設再編整備課主幹、松本 同担当主査

### 「新庁舎整備事業について」

茅ヶ崎市における新庁舎整備の取り組みについて、本市からの事前の調査事項に基づき、①新庁舎整備の概要（スケジュール、事業費、市民参画、旧庁舎の跡地利用など）、②新庁舎の特徴（災害対策、維持管理費の低減など）について説明を受けた。

さらに、新庁舎の現地視察として、各フロアの執務スペースのほか、メンテナンス設備、地下免震設備、屋上太陽光設備、ホバリングスペースなども見学しながら説明を受けた。トップライト、エコボイド（中央部分吹き抜け）により採光、通風がされ、全体的に明るく、開放的な印象であった。

庁舎建設の手法としては、旧庁舎敷地内の駐車場として利用していた部分を活用。その他の旧庁舎敷地については、行政拠点区域の真ん中にあり、将来の建て替え用地として活用することも想定し、売却することなく、広場や一部を定期借地による民間活用をすることとしている。耐震性に課題があり早急な建て替えの必要性があったことから、直接発注（総合評価落札方式）を行っている。



## 2 主な質疑応答

問 庁舎建設に関して、議会の反応は。また、反対意見や反対運動等はなかったのか。新庁舎の建て替え前に市長が交代しているが、その影響は。

答 議会では全会一致ではなかった。市長選挙では新庁舎建設が争点となり、3人の候補者のうち1人が賛成派で2人が反対派。選挙後は、賛成派の候補者が市長となったが、反対派の2人の票を合計すると賛成派より多いとの意見もあった。しかし、内覧会など事業が進む中で反対のトーンは下がり、よりよい物をとという意見が多くなった。また、住民投票の要求はあったが、議会において否決された。また、住民監査請求もあった。

問 「災害に強いちがさき」の実現を図るため、庁舎を市の防災拠点として整備されているが、ヘリポートの利用はどのように想定しているのか。

答 ヘリポートは荷重の問題から設置できなかったが、ホバリングスペースを設けている。実際に利用したことはないが、災害時の利用（救援物資の受け入れ等）を想定している。茅ヶ崎市ではヘリコプターを所有しておらず、横浜市や神奈川県への応援を求めることになる。

問 入札の概要、課題について。

答 総合評価落札方式で実施。JV(共同企業体)、単独どちらの参加でも可とした。結果として、地元企業とJVを組んだゼネコンが金額の差を逆転して落札した。建設時には労務単価の上昇、消費税率の上昇があり、約2億円の補正予算・変更契約の対応が必要となった。

問 庁舎建設に当たり、市民参画や説明はどのように取り組まれたのか。

答 基本設計、実施設計時に説明会・関係団体との意見交換を実施した。市民とのワークショップで意見を聞いた項目は、事務スペース等については建設的な意見を聞きにくいことから、市民が利用する市民ふれあいプラザ等について聞いた。その結果、当初より広いスペースを確保することとなった。

難しかった点としては、説明会の時も賛成・反対の議論になってしまったことや、賛成の人は積極的に参加しない傾向があったこと、若者の意見を聞くために高校生ワークショップも実施したが、庁舎建設に関心を持つ機会が少ないためか、行政が引き出してあげないとなかなか意見がでない状況であった。

問 1階に設置されている市民ふれあいプラザの活用について。

答 さまざまなイベントを想定している。本日は商工課が地元産品を展示しているが、常設の展示物はない。展示に係る費用は無料である。また、その一角には障害者雇用を条件としたカフェスペースを設けている。

問 食堂がないように見受けたが、市民や職員からの要望はないのか。

答 市街地旧庁舎の時から食堂はなかった。駅から近い市街地に立地しており、駅周辺の活性化の観点からも設けていない。職員も業者のお弁当や近くの大型スーパーで昼食をとっている人が多い。

以 上